

交流試合の前に記念撮影する日米の高校生たち＝佐倉市民体育館



日米高校生が力勝負

佐倉でレスリング親善大会

本県と米国の高校生による親善レスリング大会が、佐倉市民体育館で行われた。競技の普及や日米の親睦などが目的で、58回目。今年のアリゾナ州の選抜チームが参加。13人ずつが6階級に分かれて対戦したほか、米国チームの希望で、腰から下を攻めることができないグレコローマンスタイル3階級も実施した。

本県のレスリングは、1948(昭和23)年に県立佐倉高校で創部したことが始まり。同市は本県開催の国体で2度とも会場に選ばれており、西田三十五市長は「佐倉はレスリングの聖地」とあいさつした。

交流試合は白熱した攻防が繰り広げられ、県選抜が11勝5敗で大きく勝ち越し。また、同会場では園児から小学生までを対象

とした県少年少女選手権も開催していたため、多くの小学生らが高校生の力のこもった勝負に見入っていた。

66kg級の2試合に出場した日体大柏高2年の佐々木徳丸さん(16)は「外国の選手と対戦するのは初めて。(米国の選手は)手足が長く、技とかも日本人とは違



レスリングを通して交流や親睦を深めた日米の高校生たち

うのでいい経験となった」と汗を拭いた。レスリングは東京五輪で、千葉市の幕張メッセが会場となっている。